

令和3年9月1日発行

# 多摩永山中学校だより

令和3年度 第5号

多摩市立多摩永山中学校 編集・発行 齋藤 裕  
<http://schit.net/tama/jhtamanagayama>

## 協力し合い思いやりのある生徒の実現にむけて

都内で清掃業者の感染が報告されていました。このところ自宅療養者が増え、家庭ごみが増えたことと、ごみを捨てるルールや捨てる際の配慮がないために起こった感染だということでした。そのために清掃業者の人手が足りなくなり、ごみの回収作業の日程を減らさなくてはならなくなり、その地域に住んでいる人は不便を強いられることになっているといえます。その地域の方は「(感染拡大の影響は) 病院とか、そういうところだけかなと思っていたんですけど、まさかこういう形で来るとは思わなかったの、ちょっとびっくりです」「今まで当たり前のように収集してくれていたことが、重要だったなと思います」コロナがきっかけで、ごみ収集の仕事の大切さに気付いたといえます。

またティッシュの飛び出している袋などを見ると収集する時に感染する『不安』に襲われるといえます。そんなとき清掃業者はゴミで出されたティッシュを、

2枚の板で挟んで回収するようにしているといえます。ごみ袋にはマスクや、感染対策に使った可能性がある手袋が袋いっぱいに入っているときもあります。清掃業者は「直接触れないように」と2枚の板で挟んで回収していました。マスクやティッシュなどについて職員は「コンビニの袋などに入れて縛り、こういった(ごみ)袋に入れて、二重に出していただいた方が、私どもの感染リスクも少なくなります」と言っていました。自宅療養者の増加で、地域の不安も増えています。清掃事務所・事業調整係長が「収集停止というような最悪の事態を起こしたくありません。(ごみの)出し方のルールを守っていただければと思います」

自分の住んでいる地域、自宅周辺、学校、そして家族、クラスメート、地域の方々の安全をみんなで守るようにお互いに協力し合って思いやりをもって生活していかなければなりません。

そんな中の2学期スタートになります。多摩永山の生徒の力の発揮すべきときです。こんな時だからこそ、我慢と忍耐が強いられますが、それでも前向きな気持ちを、もっともっと育てていきましょう。

## 緊急事態宣言延長に伴って

3年生の修学旅行を延期といたします。現在京都府の二条城も緊急事態宣言を受けて入場不可となっております。清水寺の参道のお土産店もかなりの数シャッターを閉じています。今、日程や内容を探っているところです。決まりましたらご連絡いたします。

## ワクチン接種について

ご家庭におかれましても、ワクチン接種が進んでいることと思います。また接種後の腕の痛みや発熱、倦怠感など副反応が出た方もいらっしゃるのではないのでしょうか。

多摩市では12歳以上の接種も進んでおります。2回目の接種の時、平日で学校を休んでいかなければならない場合は必ずご連絡ください。その際は欠席とせず、出席停止として扱っていきます。

## 体調が悪いとき

生徒自身の体調が悪いときは登校を控えること、家庭内で家族兄弟の発熱等があり、体調が悪い場合でもすぐにご連絡していただいて、状況を聞いた上で登校を控えるようお願いしています。

学校職員も同様の対応となっておりますのでご承知おきください。

## 「10代のメダルラッシュ」・多摩永山中の10代も負けていません。

オリンピック・パラリンピックで10代の選手の活躍が目立ちました。東京オリンピックから正式競技に採用されたスケートボードで、日本の女子選手は4つのメダルを獲得しました。西矢椛さん（ストリート金、13歳）、中山楓奈さん（ストリート銅、16歳）、四十住さくらさん（パーク金、19歳）、開心那さん（パーク銀、12歳）。4人の平均年齢は15歳でした。これまで、オリンピックにおける日本人最年少金メダリストは、1992年バルセロナ大会の競泳女子200メートル平泳ぎで優勝した岩崎恭子さんの14歳でした。「今まで生きてきた中で一番幸せです」との名セリフで一躍有名になりました。その岩崎さんの最年少記録を破ったのが、西矢選手です。まだ中学2年生、13歳で金メダルを胸に飾りました。試合中、銅メダルを撮った16歳の中山選手と談笑するシーンが見受けられました。「ラスカルの話をしていました」と西矢選手。どうやら人気アニメ「あらいぐまラスカル」の話題だったようですが、この屈託のなさは、過去のメダリストたちにはないものでした。

スケートボードはストリートとパークの2種目に分かれます。西矢選手と中山選手が表彰台に立ったのはストリートです。こちらは、その名の通り、ベンチや手すりなどストリートを模したコース設計がされており、トリック（技）の難易度や完成度、オリジナルティなどを競うものです。ストリートが直線的なら、パークは曲線的で、アール（湾曲）を使って駆け上がり、空中へ飛び出すエア・トリックが、この種目の華といっいいでしょう。

西矢選手と中山選手が表彰台に立った9日後、パークでも日本人女子選手が活躍しました。19歳の四十住選手が金メダル、そして中学1年生の12歳、開選手が銀メダルと、いわゆるワンツー・フィニッシュを決めたのです。夏季五輪で日本史上最年少出場の開選手は、夏冬通じて日本人最年少メダリストの栄誉も手にしました。4人に共通して言えるのは、そのチャレンジングな姿勢です。オリンピックという大舞台であるのにも関わらず、プレッシャーをエネルギーに代えて躍動していました。

失敗を恐れず、チャレンジする姿に本当に感動しました。また、競技後、勝ち負けに関係なく他国の選手が、多数集まり、競技の終わった日本選手を肩車する光景には、ジーンきました。

夏季休業に入り、多摩永山中は、限られた時間・制限の中で、十分な活動練習ができませんでしたが、生徒は一生懸命努力し、オリンピック選手に負けない頑張りを見せてくれました。

◆2021 第61回東京都中学校吹奏楽コンクール ◆新体操フェスタ岐阜や東京ジュニア  
銀賞 府中の森芸術劇場ウィーンホール 男子新体操選手権大会等で活躍  
令和3年8月8日 3年 矢島 優聖



インターネットで、『矢島 優聖』で検索すると動画が視聴できます。



◆都道府県駅伝強化練習会参加 富士森公園陸上競技場・・・ハイレベルな選手の中で東京都代表選手として練習に取り組みました。 令和3年8月23日・24日 2年 松田 悠楽